

第2学年 学習指導案

1 単元名 Lesson 5 Saving Cherokee (CROWN English Communication II)

2 本単元で育成する資質・能力

- 理由や根拠を示しながら自分の考えを伝えられること。また、他者の考えを聞き、言い換えができること。(知識及び技能)
- 社会的な話題を批判的な視点から捉え、他者と考えを伝え合うこと。(思考力、判断力、表現力等)
- 他者の考えに傾聴し、自分の考えとして柔軟に取り入れるなど、他者との協働を通して課題を解決しようとする事。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実際のコミュニケーションにおいて、社会的な話題について、話された文章等を聞いて、その内容を捉えて言い換えたり、情報や考えを理由や根拠とともに話して伝えたりする技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、社会的な話題について、話し手や書き手の意図などを批判的な視点から思考し、情報や考えを適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者の考えに傾聴し、協働的に考えを構築しながら、主体的に外国語を用いてやり取りをしようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、少数言語の一つであるチェロキー語を題材として、その保護を取り上げている。世界的にも調査や研究が進んでいる分野であり、社会的にも歴史的にも深い背景をもつ題材であると言える。調べ学習を取り入れ、異なる文化に触れながら、言語の保護に関して自分たちなりの問題提起や解決策などを提示し、多様な考えに触れる活動を重視していくには適した教材であると考えている。

(2) 生徒観

本学級は、普通科文系のクラスである。英語は得意、または、好きであると考えている生徒の割合は、学年平均が75%であるのに対して、本学級は85%である。英語での発言や会話には、おおむね、積極的な態度で臨むことができる。他者との協働を通して自分の考えを広げたり深めたりする場面や、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返って自身の学びや変容を自覚したりする場面を設定することで、生徒の主体的な学習を促していきたい。

(3) 指導観

各単元や授業内の基本的な言語活動は年間を通してパターン化し、2技能以上を統合した活動を行う場面を繰り返し設定するように工夫する。また、見通しをもつことで、練習している活動の有用性を実感できると考え、単元の終末にディベート活動を行い、単元で身に付けた技能を、総合的に実践して振り返る場面を設定する。目的意識をもって活動を繰り返すことで、徐々にスキルのレベルアップを図り、単元ごとに習得した技能が、次単元では、さらに高いレベルで発揮されることが期待できる。

5 単元の指導計画（6時間扱い）（※「課題」と「評価」の番号は正対,④：育成する資質・能力）

時	学習内容・活動	指導上の留意点【評価の方法】
1	<p>課題①-1 自分の考えを話して伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少数言語に関連するトピックについて、作成したスピーチ原稿をもとに、グループでスピーチを行う。 ・本文の要約文をペアで共有し、相互に評価する。 	<p>④少数言語の保護に関連する題材について読み、要点や考えを伝えられること。 (知識及び技能)</p> <p>評価①-1 自分の考えを話して伝える技能を身に付けている。【観察・ワークシート】</p>
2	<p>・本文を1文で要約する。</p> <p>課題② 他者の考えを批判的な視点から捉えたり、考えを伝え合ったりできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に作成した、本文の内容に関する質問文をペア内で質問し合う。 <p>課題③ 他者の意図を捉え、自分の言葉で言い換えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文を言い換えることで、内容理解及び英文の構造理解を図る。 	<p>④少数言語の保護について書かれた英文を批判的に読み、質疑応答すること。 (思考力, 判断力, 表現力等)</p> <p>評価② 他者の考えを批判的な視点から捉えたり、考えを伝え合ったりしている。【観察・ワークシート】</p> <p>④本文を理解し、言い換えができること。 (知識及び技能)</p> <p>評価③ 他者の意図を捉え、自分の言葉で言い換える技能を身に付けている。【ワークシート】</p>
3 本 時	<p>○Question Making Plus</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5分間教科書を黙読したら、教科書を閉じる。その後、教師からの以下の発問に対して、ペアで話し合って答える。 <p>1 "What are reasons for not letting languages die?" 2 "What are people doing to preserve dying languages?"</p> <p>○Further Reading</p> <p>課題①-2 考えを理由や根拠とともに話して伝えることができる。</p> <p>課題④ 他者の意図などを的確に理解した上で、考えを適切に表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで「少数言語を守るべきか」という問いに対する意見を伝え合う。 ・パートナーの意見を言い換えてから、その反対の立場で反論する。 ・ペアワークのまとめをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何組かのペアに発表してもらい、それをもとに答えを確認する。また、発展的な質問を追加することで、再度、本文の内容理解を促し、次の活動へつなげられるようにする。 ・話し合いにつまずきがみられるペアにヒントを提示したり、話し合いが進んでいるペアを称賛したりすることで、生徒一人一人がペアワークに主体的に取り組むことができるようにする。 ・反対の立場からも意見を述べることを伝える。その際、必ず理由や根拠を示すことができるように、机間支援の中で発問を行う。 ・何組かの意見を取りあげてクラス全体で共有することで、その意見に対する発展的な話し合いができるようにする。 <p>④少数言語の保護について、理由や根拠を示しながら考えを伝えられること。 (知識及び技能)</p> <p>④少数言語の保護の是非について、話し手の意図を批判的に捉え、それに対して質疑応答したり、反対の立場で議論したりすること。 (思考力, 判断力, 表現力等)</p> <p>評価①-2 考えを理由や根拠とともに話して伝える技能を身に付けている。【観察・ワークシート】</p> <p>評価④ 他者の意図などを的確に理解した上で、考えを適切に表現している。【観察・ワークシート】</p>

4	<p>・ペアで「日本に存在する少数言語を守るために何ができるか」という問いに対する意見を述べ合う。</p> <p>課題①-2 考えを理由や根拠とともに話して伝えることができる。</p> <p>・ディベート活動の準備として、グループで立論作成をする。</p>	<p>・少数言語の保護について、ペアで意見を伝え合う。</p> <p>④ 少数言語の保護について、理由や根拠を示しながら考えを伝えられること。 (知識及び技能)</p> <p>評価①-2 考えを理由や根拠とともに話して伝える技能を身に付けている。 【観察・ワークシート】</p>
5 6	<p>○Debate</p> <p>第1ラウンド 立論・質疑・第一反ばく・第二反ばく</p> <p>第2ラウンド 立論・質疑・第一反ばく・第二反ばく</p> <p>課題④ 他者の意図などを的確に理解した上で、考えを適切に表現できる。</p> <p>課題⑤ 他者の考えに傾聴し、協働しながら議論することができる。</p>	<p>④ 少数言語保護の是非について、話し手の意図を批判的に捉え、それに対して質疑応答したり、反対の立場で議論したりすること。 (思考力、判断力、表現力等)</p> <p>評価④ 他者の意図などを的確に理解した上で、考えを適切に表現している。 【観察・ワークシート】</p> <p>⑤ 話し手の考えを、メモを取りながら聞き、質疑応答したり、言い換えたりしながら、主体的に議論しようとしていること。 (学びに向かう力、人間性等)</p> <p>評価⑤ 他者の考えに傾聴し、協働しながら議論しようとしている。 【観察・ワークシート】</p>